

製品名: CYP1A2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09630**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CYP1A2
別名	CYP1A2; Cytochrome P450 1A2; CYP1A2; Cytochrome P(3)450; Cytochrome P450 4; Cytochrome P450-P3
遺伝子 ID	1544.0
SwissProt ID	P05177
免疫原	抗血清はヒトシトクロム P450 1A2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

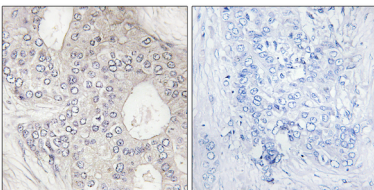
背景

この遺伝子は、シトクロム P450 スーパーファミリーに属する酵素をコードしています。シトクロム P450 タンパク質はモノオキシゲナーゼであり、薬物代謝やコレステロール、ステロイド、その他の脂質の合成に関わる多くの反応を触媒します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は小胞体に局在し、その発現は一部の多環芳香族炭化水素 (PAH) によって誘導されます。PAH の一部はタバコの煙にも含まれています。この酵素の内因性基質は不明ですが、一部の PAH を発がん性中間体へと代謝することができます。この酵素の他の生体外基質には、カフェイン、アフラトキシン B1、アセトアミノフェンなどがあります。この遺伝子の転写産物には、3'非翻訳領域に直列反復配列を挟んだ4つの Alu 配列が含まれています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: RH + 還元フラビントタンパク質 + O(2) = ROH + 酸化フラビントタンパク質 + H(2)O,補因子: ヘム基,機能: シトクロム P450 は、ヘムチオレートモノオキシゲナーゼのグループです。肝ミクロソームにおいて、この酵素は NADPH 依存性電子伝達経路に関与しています。ステロイド、脂肪酸、生体異物など、構造的に無関係な様々な化合物を酸化します。2-ヒドロキシ化の触媒活性が最も高いです。カフェインは、肝臓において主にシトクロム CYP1A2 によって N3-脱メチル化を経て代謝されます。また、アフラトキシン B1 およびアセトアミノフェンの代謝にも作用します。発がん性の芳香族アミンおよび複素環アミンの生体活性化にも関与します。複素環アミンの N-ヒドロキシ化およびフェナセチンの O-脱エチル化を触媒する。誘導: ニコチン、オメプラゾール、フェノバルビタール、プリミドン、リファンピシンによって誘導される。オンライン情報: CYP1A2 アレル,多型: CYP1A2*1F アレルは非常に一般的 (40~50%) であり、CYP1A2 遺伝子の非コード領域における塩基の置換に起因し、酵素誘導性を低下させる作用を有する。CYP1A2*1F アレルのホモ接合体は、カフェイン代謝が「遅い」。したがって、これらの人々にとって、カフェインの摂取量の増加は、致命的ではない心筋梗塞 (MI) のリスクの同時増加と関連しているようです。類似性: シトクロム P450 ファミリーに属します。組織特異性: 肝臓。 ,

研究分野

カフェイン代謝、トリプトファン代謝、リノール酸代謝、レチノール代謝、シトクロム P450 による異物代謝、薬物代謝

画像データ



シトクロム P450 1A2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。